



琵琶湖から「春」を追う  
色づく清流が  
古代湖の  
いのちを繋ぐ

日本でもっとも大きな湖、琵琶湖。世界的に見ても5本の指に入る古代湖だ。

古来より「近つ淡海」——近い淡水の海——と呼ばれた琵琶湖は、時の権力者たちの経済の基盤となり、都への物流を支える水上の道として重宝されてきた。今も鈴鹿山脈、伊吹山地、丹波高地、比良山地など、周囲の山地を源流する大小400本以上の清流が絶えることなく水を運び、この古代湖を潤し続けている。

今春から、琵琶湖を支える川々の四季を追う。どれも小さな清流で、流れも景観も比較のおとなしく、大河の迫力は見つけにくい。だからこそ素朴な魅力が引き立ち、心がなごむのかもしれない。春、最初の撮影に選んだのは、由良川、坂本川、宇曾川の3つ。日本の原風景の中に見事な桜を見せてくれるはずだ。

まずは京都府下最大の町、南丹市の美山町へ。由良川の源流となる美山川が東西を横断し、川沿いには昔ながらの茅葺き民家が38棟も残っている。美山川と併走する街道は「日本風景街道」に指定されていて、観光スポットとしても人気のエリアだ。

遅い春を迎えた山里は、県外からの観光客でたいへんな賑わいを見せていた。駐車場もマイカーや観光バスで満車だ。これからもっと暖かくなると、今度は渓谷釣りの釣り客がやってくるだろう。かつて日本海と京都市を結ぶ「西の鯖街道」として栄えた美山町は、その名残を残しながらも新しい活気に包まれている。歴史に思いを馳せながら、撮影スポットを探した。

まだ凍てつくような清流に足を入れ、美山の桜を眼前に見る。芽吹きはじめた木々の緑と、透き通るような桜色が風に揺れている。穏やかな清流のきらめきに眼を細め、最初のシャッターをゆつくりと切った。

【写真右上】由良川(ゆらがわ)の源流となる京都府南丹市の美山川。若狭湾へと注ぐ由良川の河口は水運の港として栄え、森鴎外の『山椒太夫』のモデルになったと言われている。  
【写真左上】福井県大飯郡おおい町名田庄(なたしょう)を流れる坂本川(さかもとがわ)。陰陽師の安倍晴明ゆかりの地としても有名だ。  
【写真左中】井伊家の城下町、彦根市を流れる宇曾川(うそがわ)。菜の花と満開の桜並木に迎えられ、春らしい景観を堪能できた。  
【写真左下】南丹市から西へ向かい、京丹波町で撮影した由良川。この一帯は大野ダムの虹の湖をはじめ、満開の桜が渓谷の川面を飾っていた。

